

第20回 龍頭が滝案内

「暦(こよみ)と、松笠の暮らし (その6 江戸時代の稲刈りは、9月末から。)」

今回は「嘉永三戌年農業手配」の後半の紹介です。

まず、「麦田植」(青色部分)です。当時は、裏作として麦を栽培する田もあり、麦の刈取り後、その田に田植えをすることを、「麦田植」と呼んでいました。麦田植は、麦を栽培しない田と比べるとその時期が遅くなることから、苗代を別にして苗を栽培しました。

「五月中」「四月節」「(四月)中」「七月節」「八月中」(赤色部分)は、二十四節気のことと、それぞれ、「夏至」「立夏」「小満」「立秋」「秋分」に対応します。「半夏生」「二百十日」「土用」(傍線部分)は雑節のことと、「半夏生」は、天から毒気が下りてくる日とされ、この日までに田植えを終えることとされていました。「二百十日」は、必ず暴風雨があるとされる日でした。

また、「八月十九日ただし吉日を撰穂掛」(紫色部分)とあります。八月十九日は、新暦では9月25日。「茶早稲」(緑色部分)は米の品種のこと。江戸時代の稲刈りは、9月末から始まったようです。

当時は、方位や日にちに吉凶があつて、例えば、歳刑神(さいきょうしん)という神のいる方向に種を蒔くのは、禁じられていたとか、種まきや稲刈りに適した日もあり、なるべく農作業はこの日にしたようです。

よく見ると、麻蒔麻刈、大豆、柴草採、梅採、蕎麦蒔、櫛採、雑穀、野菜物とあります。麻は着物用の麻糸に、芝草は肥料などに、櫛(ハゼ)はその実をロウソクにしました。

吉凶に気を配りながら、忙しく働く毎日だったのです。

四十六日目	一同六日、七日、八日 麦田植
五月中十三日	一同九日 麻蒔 一同廿五日 早大豆
四月節此日	一同十三日 柴草採
中十日	一同十八日 梅採
半夏生廿三日	一同廿九日 追撿
一同廿九日	一同廿五日 田中打
一同廿九日	一同廿五日 田中打
七月六日 麻刈	一同廿五日 田中打
七月節朔日	一同廿五日 田中打
一同十日頃より蕎麦蒔	一同廿五日 田中打
二百十日 七月廿五日	一同廿五日 田中打
八月十九日 ただし吉日を撰穂掛	一同廿五日 田中打
一同廿日 茶早稲刈	一同廿五日 田中打
八月中十八日	一同廿五日 田中打
一九月朔日 櫛採 一九月十二日 中稲刈	一同廿五日 田中打
土用十六日	一同廿五日 田中打

右之通年々季節を考、為心得早春書付置候事。
此外雑穀、野菜物、種蒔、植付、攘手入等天氣の晴雨により可有考事。